

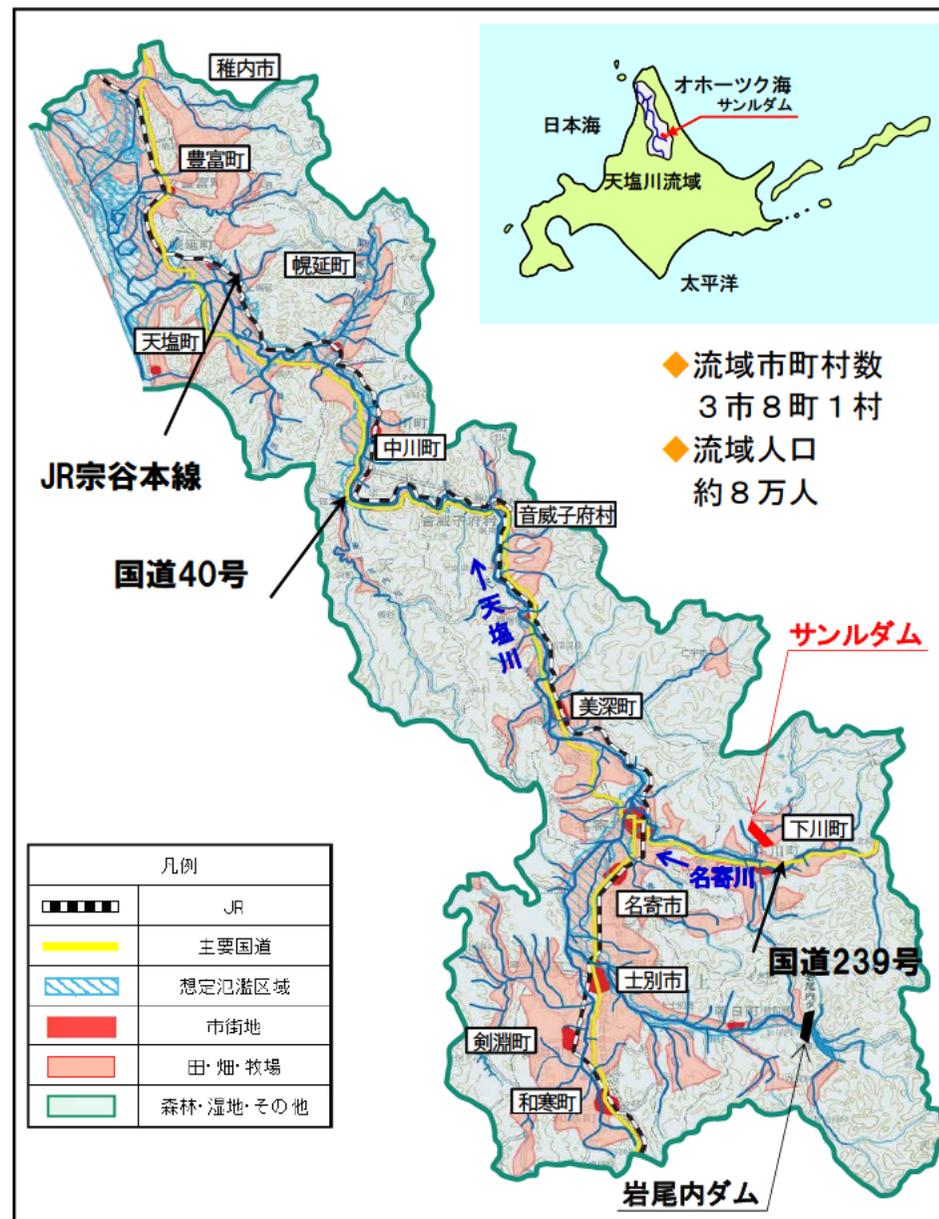
サンルダム建設事業について



平成29年3月21日

北海道開発局 旭川開発建設部 サンルダム建設事業所

- ◆天塩川は、幹川流路延長256km（全国4位）、流域面積5,590km²（全国10位）の最北の一級河川である。
- ◆流域人口の約44%が名寄市と士別市に居住する等、上流域に人口が集中している。
- ◆唯一の幹線である国道40号やJR宗谷本線が天塩川に併走しているほか、河川沿いの限られた平地部においては、氾濫水が貯留しやすい地形を有している。
- ◆流域は水田・畑作を主体とする農業が盛んであり、主な農作物は牧草、水稻（うるち米、もち米）、かぼちゃ、アスパラガス、大豆等である。また、下流域の天塩平野は優良な酪農地帯となっている。

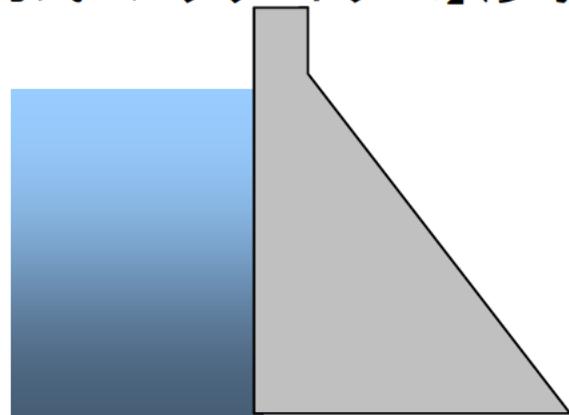


天塩川流域図

昭和63年	4月	実施計画調査着手
平成5年	4月	建設事業着手
平成10年	4月	用地補償基準妥結・調印、用地買収に着手
平成11年	8月	道道下川雄武線付替道路工事着手
平成12年	3月	水没等家屋(全13戸)の移転完了
平成20年	3月	民有地の用地補償完了
平成21年	12月	新たな基準に沿った検証の対象とするダム事業に区分
平成22年	12月	「サンルダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」設置～平成24年7月までに5回開催
平成24年	10月	道道下川雄武線付替道路の全区間供用開始
平成24年	11月	国土交通大臣による対応方針【継続】の決定
平成26年	8月	堤体建設工事の契約締結
平成27年	9月	ダム本体コンクリート初打設
平成28年	9月	定礎式

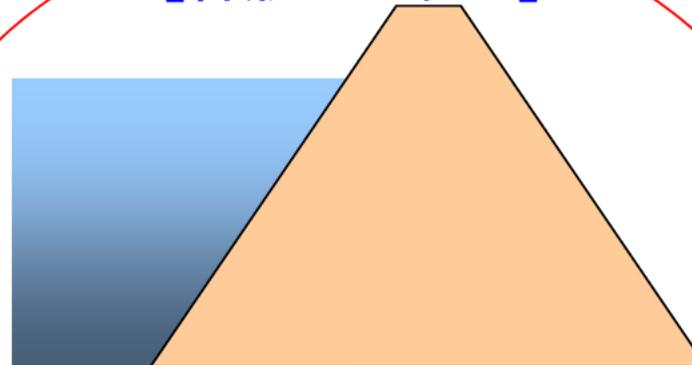
「CSG」：Cemented Sand and Gravelの頭文字。「セメントで固めた砂礫」の意味
 「台形CSGダム」：「CSG」を用いた「台形形状」のダム

【重力式コンクリートダム】(参考)



コンクリートで作る三角形のダム

【台形CSGダム】



CSG(セメント、砂、砂礫)で作る台形形状のダム

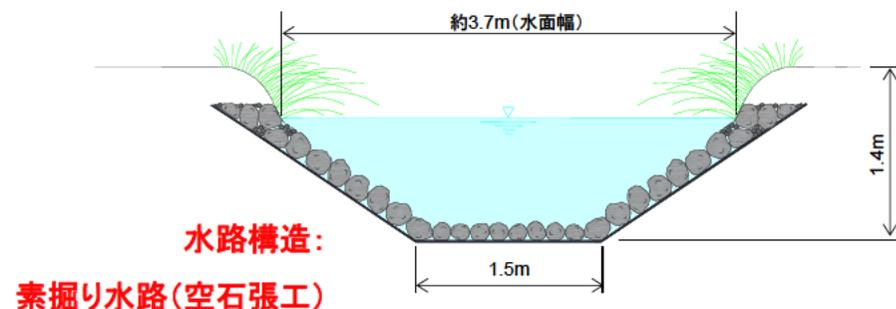
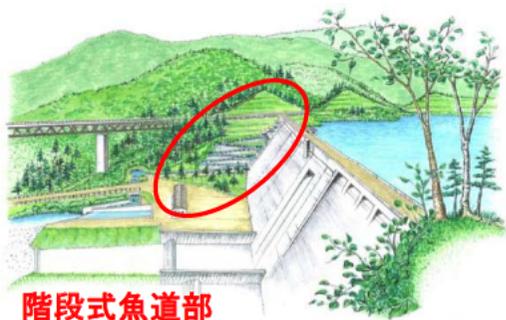


- 【設計の合理化】 台形 ⇒耐震安定性が向上 ⇒堤体材料強度を小さくできる
- 【材料の合理化】 堤体材料の所要強度が小さい
⇒低品質な材料の利用が可能で材料選定の幅が広がる
- 【施工の合理化】 施工の簡略化による急速施工が可能 ⇒工期の短縮

※当別ダム(北海道)、金武(億首)ダム(内閣府沖縄総合事務所)に続き国内3番目に着手

サンルダムの魚道について

- サンルダムの魚道については、ダム湖を通過しないバイパス魚道とする。
- ・本川との接続箇所には、降下してきたスモルトを魚道へ誘導するために、スクリーンを設置
- ・ダム湖岸沿いには、ダム堤体までバイパス水路を配置
- ・ダム堤体から下流には、階段式魚道を配置

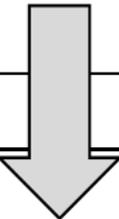
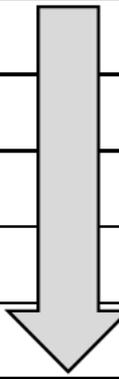
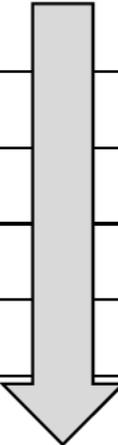


11月20日撮影



○フォローアップ・モニタリング全体スケジュール

- ダム等の管理に係るフォローアップ制度に基づき、試験湛水の前の年度である平成29年度よりモニタリング調査を開始する。
- モニタリング調査計画の作成、調査結果の分析・評価について意見を聴くため、平成28年度よりモニタリング部会を設置する。

年度	建設事業	管理	試験湛水	フォローアップ制度	
				モニタリング調査	フォローアップ調査
～H28					
H29					
H30			○		
H31					
H32					
H33					
H34					
H35					
H36～					